

令和3年度（2021年度）

文化行政の概要

文化振興施策の総合的な推進

文化振興条例および文化振興基本方針（第3次）に基づき、文化振興施策の総合的な推進を図る。

文化振興条例

文化の振興に関する基本理念、県の責務、基本的施策等を明示するとともに、文化振興基本方針の策定について定める。

〔策定経緯〕 平成13年(2001年) 12月 文化芸術振興基本法制定
平成19年(2007年) 9月 「滋賀の文化振興のあり方」提言
平成21年(2009年) 7月 「滋賀県文化振興条例」制定
平成23年(2011年) 3月 「滋賀県文化振興基本方針」策定

滋賀県障害者文化芸術活動推進計画

障害の有無にかかわらず、文化芸術活動を通じて、自分らしく活躍できる共生社会の実現に寄与する施策を総合的かつ計画的に推進。

- 計画期間：令和2年度(2020年度)から令和5年度(2023年度)
- 基本目標：多様な人びとが支えあうことにより、障害の有無にかかわらず誰もがともに、多彩な文化芸術活動に親しみ、活躍する環境の実現

●施策の展開：

親しむ	障害者が文化芸術を鑑賞し、創造し、参加する機会の充実
つなぐ・支える	障害者が文化芸術活動を通じて、自らの能力を最大限発揮し、障壁なく社会参加できるよう支援するための「人」や「場」づくり
活かす	障害者が創り出す作品等を滋賀県の誇りうる魅力として国内外に発信するとともに県民の理解の一層の促進

障害者の文化芸術活動を支える拠点のあり方等に関する検討懇話会

- 誰もが文化芸術活動を楽しめる拠点や支援する人が集える拠点となる機能を有する「場」の構築に向けて、学識経験者等による懇話会を開催。(R2.8～R3.3)
- 県は、広域拠点としてのコーディネーターの設置、地域拠点（市町の文化施設等）と連携したプログラムづくりやネットワークづくりに取り組む。

文化振興基本方針

人口減少・高齢化の進行や新型コロナウイルス感染症の影響等、社会情勢の変化を踏まえ、令和3年3月に「滋賀県文化振興基本方針（第3次）」を策定。

- 取組期間：令和3年度(2021年度)から令和7年度(2025年度)
- 位置づけ：条例第4条に規定する文化の振興に関する基本的な方針
文化芸術基本法第7条の2に規定する地方文化芸術推進基本計画

基本目標

「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」

施策の方向性

- 1 県民誰もが文化芸術に親しみ、多様な主体や世代等がつながる場をつくる
- 2 文化芸術をつなぎ支える人材や文化芸術の創り手や継承者を育む
- 3 文化芸術の多様な価値を地域づくりや他分野に活かし、活力ある滋賀を創る

施策の柱	重点施策
1 場をつくる	1 誰もが文化芸術に親しめる場の提供 2 多様な主体がつながる文化芸術活動の促進
2 人を育む	3 文化芸術をつなぎ支える人材の育成・確保 4 文化芸術の創り手や継承者の育成・支援
3 地域や社会に活かす	5 地域で育まれてきた文化的資産の発掘・保存・活用 6 文化芸術と他分野との有機的な連携の促進

施策横断プロジェクト
滋賀の美の魅力発信

施策展開の視点
「つながる」
文化芸術によって、人、地域および世代等のつながりが生まれるよう、施策を展開

推進体制

多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進
(文化団体、民間団体、文化施設・教育機関、市町、国、他の地方公共団体等)

施策の柱 1 場をつくる

文化芸術に親しめる場をつくることで、誰もが文化芸術に居場所や生きがいを見いだせ、多様な主体や世代等による交流や相互理解が進むことを目指す。

滋賀県芸術文化祭

県民の文化芸術に関する意欲的な公演および創作発表を奨励するとともに、文化芸術に親しみ鑑賞する機会を広く県民に提供することにより、県民文化の高揚を図ることを目的として、昭和46年から「滋賀県芸術祭」を開催。（平成12年度から「滋賀県芸術文化祭」に名称変更。）令和3年度で51回目となる。

○主催：

滋賀県、滋賀県芸術文化祭実行委員会（各県域文化団体の代表、市町教育長の代表等で構成）、県教育委員会、(公財)びわ湖芸術文化財団

○実施事業：

＜開催記念イベント＞（実施日）9月11日(土)
（会 場）滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
（内 容）BAF記念弦楽オーケストラや声楽アンサンブルによる音楽公演、文化団体によるアート体験会、次世代文化賞受賞者によるマジック公演 等

＜主催事業＞

●美術展覧会：（展示期間）12月9日(木)～14日(火)（前期：工芸・書）
17日(金)～22日(水)（後期：平面・立体）

（会 場）滋賀県立美術館
（内 容）「平面」「立体」「工芸」「書」の4分野

●写真展覧会：（展示期間）9月12日(日)～9月19日(日)

（会 場）草津市立草津クエアホール
（内 容）単写真・組写真。



●文 学 祭：（作品募集）7月1日(木)～8月31日(火)

（表 彰 式）11月23日（火・祝）
（会 場）滋賀県立男女共同参画センター
（内 容）小説・随筆・詩・作詞・短歌・俳句・川柳・冠句の8分野

＜参加事業＞ 芸文祭開催期間中に、市町、学校、文化団体、企業等が自主的に実施する芸術文化事業で、芸術文化祭の趣旨に沿ったものとして実行委員会が承認した事業。

びわ湖ホール舞台芸術体験事業（「ホールの子」事業）

県内の子どもたちが優れた舞台芸術に触れる機会を提供するため、県内小学生等をびわ湖ホールに招き、オーケストラとびわ湖ホール声楽アンサンブルによる音楽公演を実施する。

○公演の概要：

- 対 象…県内小学校(国市町私立)、特別支援学校、各種学校(一般教養)、適応指導教室
- 内 容…びわ湖ホール声楽アンサンブルとオーケストラによる音楽公演（約60分間）

○交通費の補助：

借上バス1台あたり実績額の8割補助。ただし補助額が5万円以下となる場合は、5万円を上限にその実績額を補助（公共交通機関は全額補助）。

○参加人数：

年度	学校数	児童生徒数
平成28年（2016年）	115校	8,014人
平成29年（2017年）	121校	8,194人
平成30年（2018年）	124校	8,544人
令和元年（2019年）	137校	10,007人
令和2年（2020年）	中止	中止
令和3年（2021年）	103校	7,153人

※特別支援学校等を含む児童生徒数



今年度の様子



●令和3年度 市町等別内訳

大津市2校244人、彦根市9校762人、長浜市11校551人、近江八幡市7校426人、草津市10校1,664人、守山市3校284人、栗東市4校319人、甲賀市13校613人、野洲市2校188人、湖南市4校207人、高島市1校3人、東近江市12校728名、米原市4校183人、日野町4校142人、竜王町2校111人、愛荘町2校165人、豊郷町1校42人、甲良町1校40人、多賀町1校50人、県立6校195人、国立1校209人、各種学校1校16人、適応指導教室2室11人

施策の柱 1 場をつくる

滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール

独自の自主制作による創造活動を基礎にしながら、県民をはじめ多くの方々に国際的水準の舞台芸術を最高の鑑賞条件で提供するとともに、誰もが舞台芸術の楽しみを味わえるよう、多彩なジャンルで国内外の優れた公演を開催する。



◆施設概要◆（平成10年9月5日開館）

- ◇ホール・敷地面積 20,000㎡（大津市から借地）
 - ・建築面積 13,960㎡ ・延床面積 28,940㎡
 - ・客席数 大ホール 1,848席、中ホール 804席、小ホール 323席
 - ・その他 リハーサル室、練習室3室、レストラン等
- ◇駐車場・敷地面積 9,485㎡（県有地）
 - ・駐車台数 普通自動車 849台、バス 3台程度

びわ湖ホール管理運営委託（指定管理）

＜指定管理者＞：公益財団法人びわ湖芸術文化財団

◆主な事業◆

オペラ	オペラセレクション「カルメン」(7月31日、8月1日)、オペラへの招待「つばめ」(10月8日～11日)、「竹取物語」(1月22日、23日)、プロデュースオペラ「パルジファル」(3月6日、7日)、ハンガリー国立歌劇場「魔笛」(中止)
オーケストラ	マーラー・シリーズ(9月18日)、ジルヴェスターコンサート(12月31日)、華麗なるオーケストラの世界(1月8日)、子どものための管弦楽教室(3月21日)
室内楽	スライド・モンスタース(中止)、硬派弦楽アンサンブル「石田組」(9月20日)、ミロ・カルテット(11月7日)、名曲コンサート(2月6日)、「びわ湖の午後シリーズ」(3公演)、「気軽にクラシック」(3公演)
バレエ・ダンス	松山バレエ団「ロミオとジュリエット」(9月25日)、フランソワ・シェーニョ×磨赤児「ゴールドシャワー」(10月23日)
演劇・古典芸能	「パンドラの瞳」(5月9日)、二兎社「鴉外の怪談」(12月25日)、野村万作・萬斎狂言(3月12日)、舞台芸術研修・成果発表公演「人魚姫」(3月19日)
音楽祭	近江の春 びわ湖クラシック音楽祭2021(5月1、2日)
普及事業	びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！(5月25日～28日、31日、6月1日)、学校巡回公演、ふれあい音楽教室
専属声楽アンサンブル	定期公演(5公演)、美しい日本の歌(8月7日、8日)、ファンタジックオペラ「泣いた赤鬼」(11月28日)

滋賀県立文化産業交流会館

県立文化施設における北の拠点として、地域や施設の特性を活かし、優れた舞台芸術の創造や文化、産業の振興を図る。また、公益財団法人びわ湖芸術文化財団本部地域創造部を拠点にして、県内の文化ホールや地域等と連携協働し、全県域を対象とした特色ある滋賀の文化・芸術振興の推進を図る。



◆施設概要◆（昭和63年4月22日開館）

- ・延床面積 10,561.04㎡
- ・客席数 イベントホール 2,000席(36m×38.8m)、小劇場(203席)、
- ・その他 練習室(2室)、会議室(5室)、パスポート窓口、びわこ文化センター、SOHOビジネスオフィス

文化産業交流会館運営委託（指定管理）

◆主な事業◆

公演制作	長栄座夏のフェスティバル(7月31日、8月1日)
人材養成	次世代育成ユースシアター事業「森は生きている」(12月19日)
	アートマネジメント人材養成講座(開催時期未定)
	邦楽専門実演家養成事業(9月～2月)
普及啓発	滋賀県次世代創造発信事業「和のじかん」(9～12月)
	滋賀県次世代創造発信事業「アートのじかん」(9～12月)
	「文化芸術×共生社会フェス」シエナ・ウインド・オーケストラコンサート(10月10日)
	フィールドアートMedia Mix 2022(1月22日、23日)
協働連携	アートコラボレーション事業(2021年6月～2022年3月)
産業振興	ビジネス・カフェ in 文化産業交流会館(10月)
	近江のあたらしい伝統産業展(7月31日、8月1日)

【文化情報の提供】

- 湖国文化情報「れいかる」の発行
年5回発行、30,000部 / 回、県内約500か所の公共施設等に配置
- 湖国文化誌「湖国と文化」の提供
年4回発行、3,000部 / 回、うち、430部を県内外図書館、大学等に配布

施策の柱 1 場をつくる

滋賀県希望が丘文化公園

希望が丘文化公園は、琵琶湖東南部に位置する丘陵地で、野洲市、湖南市、竜王町にまたがり、東西4km南北1kmにわたる416haの広大な公園であり、園内にあるスポーツ施設、青少年宿泊研修所、野外活動施設等を管理運営し、スポーツ・レクリエーション活動、自然体験活動等の主催事業を行っている。



◆施設概要◆（昭和47年4月開設）

スポーツゾーン

スポーツ会館、陸上競技場（8レーン）、球技場、野球場、ソフトボール場、テニスコート（屋内：人工芝3面、屋外：人工芝12面、ハード2面）、草野球場（2面）、ピクニックランド（13サイト）、フィールドアスレチック、グラウンドゴルフ場（32ホール）、芝生ランド、子どもひろば、グリーンアドベンチャー、サイクリングロード

野外活動ゾーン

野外活動センター、キャンプ場、ロッジ、パートセンター、オリエンテーリング雨天活動場

文化ゾーン

青年の城（最大 360名宿泊可能）、多目的広場、桜の森、ファイヤー場、ウォークラリー、オリエンテーリング、ディスクゴルフ、サイクリングロード

希望が丘文化公園管理運営委託（指定管理）

<指定管理者>：公益財団法人滋賀県希望が丘文化公園

◆主な事業◆

自然を体験し楽しみながら学ぶ場の提供	希望が丘夏休み自然塾（中止） 希望が丘夏休みわんぱくキャンプ（8月） 希望が丘冬の林間スクール（1月）
交流・憩いの場の提供	希望が丘新緑祭（5月） 希望が丘ふれあい祭（11月） 希望が丘新春まつり（1月）
スポーツ健康づくり	希望が丘ハイキング（4月、6月、11月、3月） 希望が丘スポーツフェスティバル（9月） BIWAKOクロカン2022（2月）
社会教育・生涯学習の支援	希望が丘アウトドアスクール（通年） クラフト&フィールドゲーム（通年）

施策の柱 2 人を育む

文化芸術を企画・総括するアートマネージャー、地域や学校等と芸術家等をつなぐコーディネーター、文化ボランティアなど、文化芸術を県民や社会とつなぐ人材や文化芸術の創り手や継承者の育成、確保を目指す。

未来へつなぐ しが文化活動応援事業

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う活動の自粛等により、公演等の活動機会を失った文化活動関係者の活動継続を支援するため、感染症対策を実施しながら再開する文化活動に対し補助金を交付する。

取組	補助率	補助限度額
(1)感染症防止対策経費	3 / 4	10万円
(2)文化活動経費	3 / 4	10万円

●補助上限額：(1)+(2)=20万円

【令和2年度の実績】

- 交付件数：223件
- 配信ライブや美術展覧会、地域のお祭りなど様々な活動に活用

文化芸術公演支援事業

新型コロナウイルス感染症の影響により、文化芸術公演が減少している状況において、感染拡大予防ガイドラインを遵守して文化芸術公演を実施する利用者を支援し、また、県民の鑑賞機会の創出するために補助金を交付する。

取組	補助率
施設使用料	1 / 2

【令和2年度の実績】

- 交付件数：123件
- 音楽や舞踊、伝統芸術など様々な公演に活用

滋賀県文化賞

本県の文化の高揚に貢献し、その功績が顕著な者を顕彰するため、滋賀県文化賞等の表彰を実施。(昭和51年に制度創設、令和3年度で46回目。)

表彰の区分：文化賞、文化功労賞、文化奨励賞、次世代文化賞の4つ

従来は推薦者を県内の市町、県内大学、文化団体等に限定していたが、候補者の確保・充実のため、平成30年度から推薦者を限定しないこととしている。

◆令和2年度 滋賀県文化賞等受賞者◆

※()内は受賞部門

滋賀県文化賞	富田人形共遊団 (郷土文化(伝統芸能))	
滋賀県文化功労賞	滋賀の食事文化研究会 (郷土文化(郷土食))・学術	西川 貴教 (芸術文化(音楽))
	中井 憲照 (芸術文化(音楽))	日本フェノサ学会 (学術)
滋賀県文化奨励賞	中路 友恵 (芸術文化(音楽))	風良 ゆう (芸術文化(文芸文学))
滋賀県次世代文化賞	片山 幸宏 (芸術文化(大衆芸能))	



令和2年度贈呈式の様子

施策の柱3 地域や社会に活かす

文化芸術を国際交流や観光、産業、福祉、教育等と連携させ、文化芸術が持つ多様な価値を地域づくりや経済の活性化等に活かすことを目指す。

多様な主体とのつながりによる連携・協働の推進

舞台芸術地域協働事業

県民誰もが文化芸術に親しめる機会の創出や文化芸術の創り手やつなぎ支える人材の育成を図るため、(公財)びわ湖芸術文化財団において創作されるオペラ作品『泣いた赤鬼』を、地域の文化芸術活動に関わる人や団体と協働しながら、県内地域で展開する。

県立芸術劇場びわ湖ホール

(令和3年11月28日14時開演)



舞台
芸術 × 地域の
人・モノ



東近江市立八日市文化芸術会館

(令和3年11月14日14時開演)

地域の文化活動団体
地域の合唱団
地場産業

・地域の魅力を感じることのできる公演
→オンライン配信により、全国へ魅力の発信

文化プログラムの推進

beyond2020プログラム等への参画

民間団体等へ「beyond2020プログラム」などへの参画を促し、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた機運醸成や本県の文化プログラムの推進を図る。

平成30年4月から、県が「beyond2020プログラム」の認証窓口となり受付を実施。

〔認証件数〕(令和3年3月末時点)

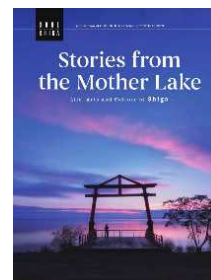
- 参画プログラム(ホームページ掲載分): 99件
- beyond2020プログラム: 670件



国内外への効果的な発信

外国人向け滋賀の文化情報発信事業

東京オリンピック・パラリンピック大会を契機とした滋賀の文化力向上のための文化プログラムを推進する取組として、訪日外国人等を対象とした滋賀文化の魅力を発信する文化情報誌を発行した。



近江文化発見・発信事業

滋賀ゆかりの文学作品等を通じて、県民が滋賀の歴史・風土・文化等を改めて認識し、地域への愛着を深めるとともに、その魅力を発信する。

司馬遼太郎没後25年記念シンポジウム

司馬遼太郎氏没後25年を記念し、司馬氏の作品(『街道をゆく』)を通じて滋賀の魅力を発見し、滋賀への愛着が深まるようなシンポジウムを開催する。

高校生向け俳句コンクール

高校生が、滋賀への愛着を深め、その魅力を発見し、発見した魅力を発信するため、俳句コンクールを開催する。



昨年度の朗読会の様子

施策の柱3 地域や社会に活かす

文化芸術×共生社会フェスティバル

県立施設や実行委員会が核となり、令和2年度に実施した「文化芸術×共生社会プロジェクト」の成果を活かし、障害のある人となない人が文化芸術活動を通じて交流し、相互理解を深めるため、「文化芸術×共生社会フェスティバル」を開催。

県立美術館の再開館を記念したアール・ブリュット展、演じる側・見る側双方にとってのバリアフリー演劇、障害者等による創作のワークショップや展示などを、市町や文化・福祉施設等と連携し、県内各地で展開。



➡ 先進的取組を進める人・団体の取組を通して、誰もが文化芸術に親しみ活躍する姿を県内外へ発信

文化×福祉プラットフォーム形成事業

①文化芸術と福祉をつなぐ研修会の開催

文化施設担当者や福祉関係者等が県内外から集まり、連携や協働のあり方、中間支援の取組方法を具体的に一緒に考える研修を実施。

- 日程 令和3年11月10日～11日
- 場所 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール リハーサル室

②障害者の文化芸術活動を支える拠点づくり事業

びわ湖芸術文化財団内に「文化芸術による共生社会づくりコーディネーター」を設置。誰もが文化芸術活動を楽しめる場づくりや障害者の文化芸術活動を支援する人が集える場づくり、これら活動に関わる人々のネットワークづくりに取り組む。

- 市町の文化施設等と連携した、誰もが楽しめる文化芸術プログラムの実施
- 文化芸術と共生社会をテーマとしたトークカフェ、個別相談会の開催
- 文化芸術と共生社会に関する活動調査や普及啓発



➡ 草の根での取組や実務関係者の研修を通して、活動者のすそ野を拡大する

滋賀次世代文化芸術センター「文化芸術連携授業」

県内小中学校等の児童・生徒などに対し文化芸術に触れる体験授業を実施している「滋賀次世代文化芸術センター」の運営を支援し、「文化芸術連携授業」などを実施。

- 活動内容：陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績：令和2年度 17校3,903名、令和元年度 38校8,382名

美ココロ・パートナーシップ事業

多様な環境下にある子どもたち（不登校や適応指導教室等に通う児童・生徒）を対象に、文化芸術体験プログラムを提供し、様々な芸術に触れる機会を提供。また、講師となる若手芸術家を「美ココロ・パートナー」として育成する取組を支援。

- 活動内容：陶芸体験、音楽プログラム、茶道体験など
- 活動実績：令和2年度 16校215名、令和元年度 15校176名



施策の柱 3 地域や社会に活かす

文化財が持つ魅力に光を当て、地域の人々や支援者等とともに保存や幅広い活用に取り組むことで、文化財やそれらを育んできた地域に対する人々の理解や関心を深め、文化財を未来に確実に継承することを目指す。

文化財保護助成事業・指定文化財管理事業

国・県指定文化財の所有者または管理団体が実施する保存修理事業・管理事業等に対して、滋賀県文化財保存基金等を利用して助成。

指定文化財保存修理等補助事業

- ・国指定文化財保存修理等補助 22件
- ・県指定文化財保存修理等補助 7件
- ・埋蔵文化財発掘調査等補助 16件

指定文化財管理事業

- ・国指定文化財監理費補助 110件
- ・県指定文化財管理費補助 59件



文化財保存修理受託事業

国・県指定文化財建造物の保存修理事業を、滋賀県が所有者から受託し、計画的に保存修理を実施。

- ・国宝延暦寺根本中堂ほか 1 棟保存修理事業
- ・重要文化財聖衆来迎寺客殿保存修理事業
- ・重要文化財不動寺本堂保存修理事業 ほか

“輪でつなぐ”滋賀の文化財講座事業

県や市町が博物館等で実施する文化財講座を他館でもオンライン受講できるネットワークづくりを実施。

「近江の城」魅力発信事業

県外で近江の城の認知度の向上を図るとともに、県内の城郭を思い思いに楽しむ仕掛けづくりを実施。

- ・出張！お城EXPO in 滋賀・びわ湖 の開催
- ・位置情報ゲームアプリによる近江のお城の周遊促進
- ・県内城郭遺跡の現地探訪 ほか



「幻の安土城」復元プロジェクト事業

安土城の実像を明らかにし、目に見える形で復元し安土城の価値・魅力を発信。

・安土城の実像解明と保全

特別史跡安土城跡整備基本計画の策定（～令和4年度） ほか

・安土城見える化の検討

デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画の策定 ほか

・復元に向けた機運醸成

「彦根城」世界遺産登録推進事業

R3

・「推薦書原案」の完成

学術会議、国際会議の開催

・「包括的保存管理計画原案」の完成等

・機運醸成事業

【目標】

R4

国内推薦
の決定

R6

世界遺産
登録実現

近江の文化財を活用した健康増進事業（健康増進ウォーキング）

従来の現地探訪に加え、家族や少人数で思い思いに文化財探訪ウォークを楽しめるよう、モデルコースの見どころ等を紹介する映像を制作・発信。

・ウォーキングイベントの開催（2回）

① 蒲生氏郷の足跡を訪ねて（日野町）

② 湖中示現の神の里をゆく（野洲市）

・案内動画の作成、YouTube配信

文化財保存修理の最前線！発信事業

建造物の保存修理の現場等を、技法の違いや特徴などを紹介しながら映像化。

【建造物】：5 現場の屋根保存修理の比較

【民 俗】：曳山修理の現場（県選定保存技術）



施策横断プロジェクト 美の魅力発信

多様で豊かな美の魅力が、各地域に満ち溢れている滋賀県全体を、あたかも、ひとつの「美術館」のように感じていただけるよう、『美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に』というコンセプトのもと、多くの方々の共感・参画を得ながら、滋賀の美の魅力発信に取り組んでいく。

各地域で行われる美の魅力発信

美の発信に関する総合センター（プラットフォーム）設置

再開館後の県立美術館を「美の発信に関する総合センター」と位置づけ、プラットフォームとしての機能を発揮する中で、関係者や県民の交流を創出するとともに、滋賀の多様な美の魅力を国内外に効果的に発信する。

○取組：企画・広報、応援団づくり、活動支援、相談・コーディネート等

美の資源活用推進事業

地域にある滋賀特有の美の資源を活用した、アートイベント等の取組の支援を行う「滋賀をみんなの美術館に」プロジェクト事業により、多様な美やアートを通じた人と地域、社会のつながりや、新たな創作活動への刺激を生み出すとともに、美の魅力を県民自ら発信していくことを目指す。

○事業対象者：県内に所在または活動の拠点を有する団体、市町、等

◆参考実績：令和2年度「美の滋賀」プロジェクト推進事業 事業実施団体一覧◆

団体等名	所在地
近江の祭り研究所	野洲市
国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ実行委員会	近江八幡市
地域とアートプロジェクト実行委員会	大津市
ナガハマグラスフェス実行委員会	長浜市
長浜ローカルフォト	長浜市
ながらの座・座	大津市
NCL湖南「コヤンナーレ」実行委員会	湖南市
ONESLASH	長浜市



成果発表会@SHI Gallery



NAGAHAMA GLASS FES 2020

アール・ブリュットの振興

アール・ブリュットの魅力発信事業（ふらっと美の間）

県民をはじめ、より多くの方が滋賀の福祉の歴史から育まれたアール・ブリュット作品の魅力にふれられるよう、アール・ブリュットを紹介する高精細な映像コンテンツを制作する。さらに、文化観光の推進を図るため、県内の宿泊施設に作品展示を行う

◆令和3年度作品設置先（予定）◆

設置先	所在地
里湯昔話雄山荘	大津市
おごと温泉びわ湖花街道	大津市
料理旅館塩野温泉	甲賀市
尾上温泉 旅館 紅鮎	長浜市



里湯昔話雄山荘

アール・ブリュット振興事業（アール・ブリュットネットワーク等）

アール・ブリュットの支援などに携わる美術、福祉、医療、研究機関、行政等様々な分野の関係者間の交流促進や情報発信等を行い、アール・ブリュットを支える環境全体の底上げとその動きを広げていくことをめざした全国組織「アール・ブリュットネットワーク」の運営を行う。年1回のフォーラムや年2回の会員交流会を実施するほか、随時、アール・ブリュットに関連する展覧会やイベントの情報を伝えるメールマガジンを発行する。

・ネットワーク入会件数（令和3年6月時点）
801件（団体199/個人602）
情報会員（メルマガ登録のみ）604件



アール・ブリュットネットワークフォーラム
2021 (チラシ表/裏)

滋賀県立美術館

6月27日（日）リニューアルオープン

長期休館していた県立近代美術館を4月1日から滋賀県立美術館に改称し、6月27日（日）に再開館しました。

■ コンセプトは、かわる かかわる ミュージアム

今ここを知るために、未来の生活を考えるために、近代よりも前の歴史を踏まえる必要があるはず。
そんなことを考えて、名称から「近代」をとり、再スタートを切る滋賀県立美術館。
今後は変化をおそれず、様々な人や地域や時代と積極的に関わっていく。



エントランスイメージ

■ 新しくなった点

子ども連れの方など、より多くの方に美術館での時間を楽しんでいただける空間へ。

- ・エントランス … カフェ&ショップ
- ・1階 … 多目的に使えるラビ、ちょっとした展示に使えるポップアップギャラリー
- ・2階 … キッズスペース、授乳室のあるファミリールーム
- ・その他 … 館内のサイン、家具、照明、ベンチ、トイレ等



キッズスペースイメージ

■ 新たなロゴマーク

美術館の大きな屋根のような三角形を組み合わせ「M」と「S」のかたちをつくり、水の上で飛び跳ねる魚や飛び立つ鳥のかたちをイメージしました。湖に飛び込むように地域に入りこみ、様々な人たちと広くコミュニケーションしていく姿を現しています。

VI、グラフィック、サイン計画 UMA/ design farm



美術品の保全と収集

県民共有の財産である優れた美術作品を後世に伝え、広く鑑賞していただけるよう、重要な収蔵作品の修復を行うとともに、作品収集方針の柱であるアール・ブリュット関連や郷土ゆかりの作家の作品などの収集を継続的に行う。

展覧会の開催

滋賀にゆかりの作家や、建築、デザインや写真等、従来のコレクションの枠を超えた他分野とも交流しながら、他館では見られないオンリーワンの自主企画を実現するほか、従来の常設展もテーマ設定を明確にして、コレクションを軸に多様な主題を取り上げ、いつ来ていただいても見ごたえのある展示を実現します。

令和3年度に予定している展覧会

<企画展>

- ▼「Soft Territory かかわりのあわい」
…休館中に地域で展開してきた滋賀にゆかりの若手作家による制作展示プロジェクトの総集編
- ▼「リニューアル記念コレクション展 ボイスオーバー 回って遊ぶ声」
…美術館全館を使い、全国的にも評価の高いコレクションの全貌を横断的に紹介する展示
- ▼「アール・ブリュット関連企画展（仮）」
…海外でも紹介されてきた評価の高い作家を中心に、表現の多様性と魅力を実感できる特別展

<常設展>

- ▼「ひらけ！ 温故知新—重要文化財・桑実寺縁起絵巻を手がかりに—」
…桑実寺に伝来する重要文化財の縁起絵巻を中心に、絵巻物の魅力を紹介する展示
- ▼「昔の滋賀のくらし」
…むかしの暮らしの風景が描かれた収蔵品を組み合わせ地域史を紹介する展示
- ▼「野口謙蔵生誕120年展」
…生誕120周年を迎える滋賀にゆかりの画家の回顧展

教育・交流事業の展開

①学校・教育委員会との連携による美術教育プログラム

- ・県内各地の学校における出前授業の実施
- ・学校団体による展示鑑賞プログラムの本格展開に向けた検討・準備

②様々なニーズや世代に対応する鑑賞・体験プログラム

- ・年齢段階や障害の有無など多様な属性に対応したプログラムの検討・実施
- ・展覧会のテーマに関連した講座等の実施

③館内や地域での活動のパートナーとなるボランティア制度

- ・これまでのボランティア（美術館サポーター）制度を再構築し、美術館のパートナーとして、館内だけでなく地域においても県民と美術館をつなぐ役割を果たしていただけるよう、新たに募集・養成

■ ワークショップフェスティバル「美の糸ローアートにどぼん！」

美術館で平成26年から開催している親子で美術や滋賀の美の魅力を体感できるワークショップフェスティバルを、びわこ文化公園内をフィールドに定期的に開催する。

